



「定住外国人の子どもの就学支援事業」 シンポジウム

2011年11月16日（水）13:00 - 17:00
於 文部科学省 旧文部省庁舎 6階第2講堂

「定住外国人の子どもの就学支援事業」は、景気後退などにより不就学・自宅待機となっている外国につながる子どもを対象とした支援として、2009年に開始されました。日本語等の指導や学習習慣確保を図るための場として「虹の架け橋教室」を設け、主に公立学校への円滑な転入が出来るようにすることを目的としています。

このシンポジウムでは、3年目となる本事業の取り組みや成果を、実際の「架け橋教室」の経験に基づいて紹介し、外国につながる子どもを地域でどのように支えていくか、課題や今後の展望について議論します。

プログラム（予定）日・英・ポルトガル語同時通訳付 以下、敬称略

13:00 開会

開会の辞

文部科学省幹部（未定）

基調講演

国際移住機関（IOM）事務次長 ラウラ・トンブソン

13:20-14:20 「定住外国人の子どもの就学支援事業」活動紹介 事業の全体概要 文部科学省

「架け橋教室」からの活動報告

青少年自立援助センター 田中 宝紀

国際社会貢献センター ABIC 森 和重

鈴鹿市教育委員会事務局 人権教育課長 篠原 政也

架け橋サポーター 重井 アマンダ

14:20-14:40 休憩

14:40-16:50 パネルディスカッション・質疑応答

テーマ：

「架け橋教室」の様々な取り組み、これまでの成果・課題
地域の外国につながる子どもの支援について今後の展望

ファシリテーター：

「定住外国人の子どもの就学支援事業」運営委員 北脇 保之

パネリスト：

青少年自立援助センター 田中 宝紀

国際社会貢献センター ABIC 森 和重

鈴鹿市教育委員会事務局 人権教育課長 篠原 政也

愛知淑徳大学 准教授 小島 祥美

16:50 閉会の辞

文部科学省 国際課長 池原 充洋

国際移住機関（IOM）駐日代表 ウィリアム・バリガ

17:00 閉会

報告者・パネリスト紹介（報告順、敬称略）

●ファシリテーター 北脇 保之

「定住外国人の子どもの就学支援事業」運営委員

1952年生まれ。1974年自治省（現総務省）入省。1996年衆議院議員当選。1999年浜松市長就任。外国人受入れ政策を推進。2007年東京外国語大学教授。多言語・多文化教育研究センター長を務める。2011年城西大学現代政策学部客員教授（現在に至る）。

●活動報告者・パネリスト 田中 宝紀

特定非営利活動法人青少年自立援助センター

定住外国人子弟支援事業部 事業実施責任者／統括コーディネーター

2008年、東京都福生市にてボランティア日本語教室を主宰し、外国にルーツを持つ子どもたちと出会う。その問題とニーズの大きさから翌年、地域内初めての試みとなる外国人児童生徒支援事業「子ども日本語プレクラス」を企画・運営。2010年より現職。

●活動報告者・パネリスト 森 和重

NPO法人国際社会貢献センター（ABIC）中南米コーディネーター

1958年三井物産(株)入社、メキシコ、コロンビア、インドネシアなど海外駐在17年。2001年からABICにて中南米関係業務担当。2005年から三井物産ブラジル人子弟支援プロジェクト業務委託（ブラジル人学校支援、補助教材作成支援、NPO法人支援、カエルプロジェクト支援など）2009年から虹の架け橋教室運営、2011年文化庁「日本語教室」運営など。

●活動報告者・パネリスト 篠原 政也

鈴鹿市教育委員会事務局 人権教育課長

1982年に鈴鹿市立小学校の教諭となる。児童支援担当のときに外国人児童の受入れにかかわる。2004年から鈴鹿市教育委員会事務局人権教育課、指導課の指導主事を務め、2011年に人権教育課長に就任。2009年から鈴鹿市日本語教育支援システムの構築に取り組んでいる。

●活動報告者（架け橋サポーター） 重井 アマンダ

名古屋外国語大学3年生

ブラジルで生まれ、7歳のときに来日。日本語を学んでから、日本にいる外国人のためになる職に就きたいと思うようになる。大学を休学中に外国籍児童サポーターという仕事を経験。将来は教師になって、日本にいる外国にルーツを持つ子供たちの手助けをしたいと思っている。

●活動報告者・パネリスト 小島 祥美

愛知淑徳大学 文学部教育学科准教授

1994年公立小教員時に外国人児童と出会う。神戸での活動中に不就学の子どもと出会い現状を変えたいと強く決意。03年4月に可児市にて就学実態調査に行政等と協働して挑み、その結果、同市教育委員会に初代外国人児童生徒コーディネーターとして不就学ゼロをめざした施策を実践。06年9月に愛知淑徳大学教員着任、11年4月より現職。「外国人の子どもの就学と不就学に関する研究」で博士号取得。